



病気も込みの人生

岩山 明美

目覚めた直後から、首筋が異常に緊張して、頭痛もある。寝違いのきついのがいつも続いている状態である。肩はもの凄く重く、いつもリュックを背負っているみたい。おまけに腰痛に悩まされ続けている。さわやかな目覚めなど、ここ25年間ない。気力をふるい立たせ、イヤイヤ6時30分頃起床するが、10時頃までは泣き出したい程辛い。全身が異常にだるく、慢性疲労感を感じている。

平成元年5月に「後縦靭帯骨化症」と診断された。この病気は「背骨をつなぎとめている靭帯が骨の塊に変化して脊髄を圧迫する原因不明の疾患。一旦脊髄麻痺が生じるとじわじわ進行する。最悪の場合寝たきりになる可能性の強い病気です、と医師から説明を受けた。

その時の私の症状は、首から肩にかけて頑固なコリと痛みで悩まされ、もう「生きる事を、打ち止めにしたい。」そんな気持ちだった。脊髄麻痺から救われたい、辛い痛みから解放されたい一心で、平成元年5月に手術を受けた。でもその結果、麻痺はまぬがれたけれど、相変わらず痛みは残ったまま。思い返してみると次から次へと、色々な治療を試してみたような気がする。

痛みからの解放を願って「硬膜外ブロック」「星状神経ブロック」「カイロプラクティック」「局所鎮痛剤」「ハリ」「マッサージ」「神経活性の為の入院して点滴」「漢方薬」「座薬」等々試してみるが、ほんのいつとき痛みを忘れさせてくれる期待と失望のくりかえしだった。「痛み」は当人だけのものだから、その辛さを訴えようと思っても、中々表現できない。家族にもこの痛

み辛さはわかってもらえない。私の主治医にも本当の患者の苦しみは分からないと思う。自分一人で苦しまなければならないのが一番辛い。

25年経った今、病気は決定的な不幸ではないと思えるようになった。病苦で人の痛みも理解できるようになったし、謙虚になれた。死ぬまで続く痛みであろうけど、ここまで生かして頂いた。命を繋いでくれた先祖のお蔭で今私は自分の番を生きている。

今までどれだけの物の命を戴き、今まで沢山の人のお世話になってきたし、助けられた。感謝して最後まで命を全うしたい。

